

国際化拠点整備事業（グローバル30）の構想見直しの例（案）

■推進事務局による13大学が共通で行う取組

- ・日本の経済3団体（日本経済団体連合会、日本商工会議所、経済同友会）他との連携の検討、インターンシップ促進・企業からの講師招聘などの検討のための協働作業部会の設置。
- ・日本経済団体連合会との連携による「産学連携フォーラム」の開催。留学生の就職、キャリア・パスの確立等、就職時における海外留学経験の適切評価など産業界との海外留学奨励の連携を目指す。また、「サンライズ・レポート」(2010年12月6日(社)日本経済団体連合会)の具体化に取り組む。
- ・拠点大学における企業の協力講座（冠講座）の情報を発信。
- ・拠点大学における留学生受入れ数増加のために取組んだ大学改革の先行事例や拠点大学における資源及び成果などについて、拠点大学以外の国際化に積極的な大学と共有。
- ・日本留学希望者向け情報発信機能を強化するため「情報発信のための戦略会議」を設置し、企業関係者や留学生などサイト利用者の意見も参考にしつつ、ウェブサイト“jump”の日本留学希望者向けコンテンツを充実。その際、国際的な活動に特に重点を置く大学において共通的に海外発信すべき情報の在り方（情報発信テンプレート）を検討し、反映。
- ・日本の在外公館、日本学生支援機構・日本学術振興会・国際交流基金の海外事務所等のほかBritish Councilなど海外の機関とも協力し、海外メディアへの広報強化を図る。
- ・全拠点大学の副学長クラス会合により、共通課題の解決、国際化のための総合的な戦略について協議。また、全拠点大学による事務担当者会合開催により実務的な内容を協議・実施。
- ・拠点大学及びその他の大学、現地の大学及び関係機関と協力して日本留学説明会を実施。また、日本大使館など関係機関の協力により、メディアへの露出による二次的効果も図る。
- ・大学職員の国際化推進のため、事務職員研修共同カリキュラムを開発し、実務研修を実施。これを契機に国際担当職員のネットワーク構築を図る。

■13大学の個々の特徴ある取組

<ネットワーク化>

○G30拠点大学間のネットワーク化

- ・東北大学、筑波大学、名古屋大学による実務的パイロットネットワーク
- ・京都大学、大阪大学、同志社大学、立命館大学による「G30関西地区連絡会（仮称）」

○地域における大学間のネットワーク化

- ・北日本地区における大学との連携（東北大学）

- ・北関東における大学との連携（筑波大学）
- ・「大学コンソーシアム京都」や「京都地域留学生交流推進協議会」による地域連携（京都大学、同志社大学、立命館大学）
- ・阪神地区大学（大阪大学、神戸大学、関西大学、関西学院大学）国際化推進ネットワーク（仮称）（大阪大学）
- ・九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク「Q-Links」、福岡西部地区五大学連携（九州大学）
- ・単位互換のコンソーシアム「f-campas」（早稲田大学）
- その他特徴的なネットワーク化
 - ・チュニジアの海外大学共同利用事務所の活動に基づく北アフリカ地域の有力大学と日本の大学による「日本・北アフリカ学術連携ネットワーク」の構築（筑波大学）
 - ・T. I. M. E、CEMS、APRU など加盟する国際的ネットワークによる連携（慶應義塾大学）
 - ・日本カトリック大学連盟などミッション系ネットワークによる連携（上智大学）
 - ・学長会議等の機会を利用した外国の大学とのネットワーク強化（同志社大学、立命館大学）

<産業界との連携>

- 産業界と連携した講師招聘、インターンシップ、就職支援等の実施
 - ・産業界との連携による留学生ジョブフェアの開催（東北大学）
 - ・協定企業等との連携によるオムニバス授業の実施（筑波大学）
 - ・日本経済団体連合会等経済団体や企業との連携を強化し、留学生へのキャリア支援の実施（東京大学）
 - ・企業との連携による自動車工学プログラム・サマープログラム等への講師招聘（名古屋大学）
 - ・関西経済連合会、関西経済同友会をはじめ関西地域の産業界との国際化に関する連携、4月に設立予定の民間シンクタンク「アジア太平洋研究所」との留学生支援に関する連携についての検討（京都大学、大阪大学）
 - ・アジア人財資金構想(平成 20 年度～)での企業コンソーシアムとの連携による就職支援(九州大学)
 - ・企業との連携により海外経験を含めた学生自身のキャリア形成について考える場として「グローバル・キャリア・フォーラム（仮称）」を開催（慶應義塾大学）
 - ・NPO法人「ネットワーク日本」を通じた産業界との留学生の就職連携（明治大学）
 - ・タイの協定大学を通じた在タイ日本企業との海外短期インターンシップの実施（明治大学）
 - ・産業界との連携による「キャリア形成支援特別プログラム」の実施及び日本人学生への開放（立命館大学）

<英語コースの授業開放>

○大学間ネットワークによる授業開放

- ・北日本地区の大学間ネットワークによる授業開放（東北大学）
- ・関東甲信越地区を中心とする大学との連携による授業開放（筑波大学）
- ・近隣大学との協定による英語プログラムの他大学学生への開放（名古屋大学）
- ・「大学コンソーシアム京都」による英語授業等の共有（京都大学、同志社大学、立命館大学）
- ・T. I. M. E 加盟大学との単位互換の推進（慶應義塾大学）
- ・経営学研究科英語コースの英語授業について9大学院からなるコンソーシアムの留学生を聴講生として受入れ（明治大学）
- ・単位互換コンソーシアム「f-campus」による授業開放（早稲田大学）

○日本人学生または他大学の学生への開放

- ・英語コース提供科目の日本人学生への開放、他大学との相互開放の検討（大阪大学）
- ・短期留学プログラムの他大学への開放（九州大学）
- ・Cool Japan Summer Program の他大学との連携及び他大学留学生・日本人学生への開放（明治大学）
- ・海外での短期語学講座・研修の他大学への開放（上智大学）

○ITを活用した授業開放

- ・インターネット上での授業開放（東京大学）
- ・環境情報学部「GIGA Program」の iTunes U を通じたネット公開の検討（慶應義塾大学）

<教育資源の共有化>

○3拠点大学パイロットネットワークによるFD・SDの共同実施（東北大学、筑波大学、名古屋大学）

○英語化文章の公開による教育資源の共有化（東京大学）

○WEB出願システム、学内文書の英文化データベースの他大学との共有。（名古屋大学）

○英訳文書の他大学への公開、FD・SDの他大学との共同開催（京都大学、同志社大学、立命館大学）

○英文化した学内規則、開発した教材、国際化に関する経験・成果などの共有化（九州大学）

○翻訳DBを活用した学内バイリンガル文書の管理運用の事例をケーススタディとして他大学に公開、他大学でも有用なデータについても公開（慶應義塾大学）

○海外事務所等の他大学への開放

- ・平成23年度4月開設予定のソウル事務所の会議室等の大学コンソーシアム京都加盟大学への開放。（同志社大学）